

21世紀に向かい、思いやりのある素直で賢い若者を育てたい

大分県大分市立大東中学校

いせひろこ
伊勢博子

【実践の概要】

「思いやる」という行為は、相手が困難に陥っているときに限って必要なことではなく、常に「相手がなにを考え、なにを願っているのか」を「思いやる」＝「想像する」(察すること)である。残念ながら、いま目の前にいる生徒たちには、その力が乏しい。

21世紀は生きることが困難な時代になる。我々教師がいまできることは、「思いやりのある素直で賢い若者」を育てる教育活動を「恐れず、ためらわず、そして億劫がらずに」取り組むことである。それが、大人としての、そして教育者としての責任であろう。時代を担う若者たちの未来が輝かしいものであることを願って、保護者の力を借りながら、互いに思いやることの経験を、意図的に仕組んだ道德教育の実践報告である。

【論文内容の紹介】

道徳主任としての取り組み

(1)指導目標の焦点化

資料をもとに「生徒の道德性に関する実態調査」を実施した結果「思いつきの感覚的な行動をとる生徒が多く、どうしてこうしなければならないのか(してはならないのか)を考えて行動ができない」また、「一見、表面的には深い繋がりがあるようには見えるが、相手の立場に立ってものごとを考えることができず、すぐにトラブルを生じ、関係が崩壊してしまうといった、希薄な人間関係が成立している。」という実態が明らかになった。この課題を克服するため、道徳部会としてい

くつかの提案をし、実践にあたった。

(2)実践内容

保護者作成の道德教材

保護者の体験を読物教材として活用。保護者に道德教育への参加を求める意図も持つ。

心のメッセージ

宿泊を伴う学校行事や卒業式のときに、生徒から保護者へ、保護者から生徒へのメッセージカードを作成し、交換した。手紙のなかでは互いに素直になれる。その温かい心の交流を求めた。

P T A 親子紹介

学級P T Aの時間に、学級の親子が互いに自己紹介をしあう。生徒は相手の保護者の子ども(友達)の良い面を学校でのエピソードを交えての紹介。保護者にとってはかなりの情報量。また、生徒の顔と名前とが一致し、交流ができたことで、学校外でも出会ったときの挨拶や声かけをしてもらえ、新たな人間関係が成立した。

校区内一周マラソン大会

体育の持久走の授業の成果発表とも関連させた。沿道での見も知らぬ地域の人達の声援が生徒を励ましてくれた実践である。

通知表での道德的側面の客観的評価

ゲストティーチャーによる授業

経験を生かした道德教育実践

教科指導における道德指導

授業開始前3分間の生徒とのミニトーク

メッセージやテーマ性のある教室掲示

ここが変だよ！中学生

P T Aで最近の中学生を見ていて、ここがヘンだ、保護者として納得がいかないということを出し合い、学級通信に掲載した。

親子文集

保護者が子どもが生まれたときのエピソードや名前の由来を書いたものを文集にする。

実践の成果

「大人に見られている」という意識を生徒にもたせることができたのが、最大の成果である。